船舶事故調査報告書

平成２４年１月２６日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決
委　　員　　横　山　鐵　男（部会長）
委　　員　　庄　司　邦　昭
委　　員　　石　川　敏　行
委　　員　　根　本　美　奈

事故種類	浸水
発生日時	平成２３年７月１６日　０４時５５分ごろ
発生場所	アメリカ合衆国グアム島南方６５５海里（Ｍ）付近 （概位　北緯０２°４０′　東経１４２°５０′）
事故調査の経過	平成２３年７月１９日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか１人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 Ｌ×Ｂ×Ｄ、船質 機関、出力、進水等	 漁船　第二十八大成（たいせい）丸、１９トン 第２９５－３７０１４号、交洋物産株式会社 ２０．４０ｍ×４．１０ｍ×２．１１ｍ、ＦＲＰ ディーゼル機関、１３９kW（漁船法馬力数）、平成４年１月１８日
乗組員等に関する情報	船長　男性　５９歳 一級小型船舶操縦士 免許登録日　平成１７年８月１１日 免許証交付日　平成２２年８月１７日 （平成２７年８月１６日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	全損
事故の経過	本船は、船長ほか６人が乗り組み、マグロはえ縄漁の目的で平成２３年６月２０日１３時００分ごろ、グアム島アプラ港を出港し、北緯０４°東経１３９°付近の漁場に向かい、６月２５日に同漁場に至って操業を開始した。 本船は、操業を続け、２０回目の操業を終えて次の投縄地点に向けてグアム島南方海域を東進中、７月１６日０４時５５分ごろ機関室のビルジ高位警報が鳴った。 船長は、ビルジ高位警報が停止しないため、状況を確認しようと操舵室を出て機関室に急行したところ、主機の約半分の高さまで浸水しているのを認め、僚船に救援を要請した。 本船は、船長ほか乗組員全員が僚船に救助されたのち、同日１１時２５分ごろ沈没した。
気象・海象	気象：天気　曇り、風向　北東、風力　２、視程　約２Ｍ 海象：波高　約１．５～２ｍ
その他の事項	本船は、船体ほぼ中央の甲板上に操舵室を、その甲板下に機関室を、機関室の後方に船員室を配置し、機関室は、中央に主機が据え付けられ、主機の前方両舷に右舷発電機及び左舷発電機が設置され、機関室前部には冷

	凍機の設置台が取り付けられていた。 　機関室の広さは、長さ約３．９ｍ、幅約３．８ｍ及び高さ約２．５ｍであり、冷凍機設置台の長さが約１．２～１．３ｍであった。 　主機の冷却海水系統は、船底弁からこし器を通って吸引された海水が、主機駆動の冷却海水ポンプで加圧されたのち、空気冷却器及び清水冷却器を経て船外に排出される経路と、クラッチの潤滑油冷却器に送られて船外に排出される経路とに分岐しており、鋼製配管が使用されていた。 　機関室のビルジ高位警報装置の検出器は、主機クラッチの船尾側中央部に設置され、ビルジの液面が船底から約３０㎝ 以上になると警報を発するようになっていた。また、本船は、ビルジポンプを２台装備しており、ビルジの高位警報装置が作動する前に自動始動してビルジを排出するようになっていた。 　船長は、本事故時、機関室内に入ったものの浸水量が多くて浸水防止対策を採ることができず、また、浸水箇所を発見することもできなかった。	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	不明 あり なし 　本船は、グアム島南方海域を東進中、機関室に浸水したことから、沈没したものと考えられる。 　本船は、海水管が腐食するなどして破口するか、船底に何かが接触して破口するなどして浸水した可能性があると考えられるが、本船が沈没したことから、その状況を明らかにすることはできなかった。
原因	本事故は、本船が、グアム島南方海域を東進中、機関室に浸水したため、発生したものと考えられる。	